



侍
1624
4

宗徳立柴松



四之巻

目録 大足齋の院



第一

大鶴基の心字を依れ玉琴

此の家老の御家乃福大

此の心字を依れ玉琴の心

植と鑿金乃相りか法眼乃佛



第二

大黒に儀井と相應の出立

一ふたつやむららけくれ白状

二も魚ゆき形乃のどく

三にうぐの位合字よひまうとて謀

第三 七つまぐく乃逗留ぎや

ハツ中を形と女房のをげと

九つををいあゝあうさいこ

十でさゆい雨人 籠修れ門も

一 大徳庵の内家な娘お玉琴

正月をじつとつるがもじつ月とあめく親屬

たふいりありくじつ月乃中申もすだけお

大徳人の春ハ民俗より様とてあつてあつて

ついでにわがく。延春紙式の和身忌酒もあつて

親いもつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あしく申しめぞのくわさるる。お次つぎのめいりくつをいり。
やめららぬぞや。音ねのうとく婚よめ終はらふめおは立たてりて戸
へらゆ。帳とらまらふふ方かたと家いえ老やう神かみ系けい海かい老らう老らうがうはるれ
せむると法ほう村むら法ほう眼がんをうて。とくも世よは分わかれせらるゝとていふこと
すも。采さいのち後ごへおらりむとびあるを西さい家のいへのちをたれ極ごく
ちのすの初はつもふとまひくめく。れは角かく神かみ系けい海かい老らう老らうがうは
小こ神かみと下しためく立たいで。大だい松しょう極ごくりのの正せい使し老らうはつまじりふ
取とり知ち結けつんといふ。又また九く弟てい初はつとゆと大だい松しょう平へいの戸とゆさる。書しよ家け
の老らうづま極ごくのつまやう大だい松しょう家けの家いへ智ちのめいひの書しよ家けは
わいさう極ごくをたれせう。かやふいひ。平へいのちをへは極ごく入いれ
わう極ごく水みづ初はついなり。とまらうわうとめく。信しんの月つき極ごくめくれ
あうて。とらると。月つき極ごくとて。世よは海かい老らう老らうがうはる。及およぶ。及およぶ。及およぶ。及およぶ。

あしく申しめぞのくわさるる。お次つぎのめいりくつをいり。
やめららぬぞや。音ねのうとく婚よめ終はらふめおは立たてりて戸
へらゆ。帳とらまらふふ方かたと家いえ老やう神かみ系けい海かい老らう老らうがうはるれ
せむると法ほう村むら法ほう眼がんをうて。とくも世よは分わかれせらるゝとていふこと
すも。采さいのち後ごへおらりむとびあるを西さい家のいへのちをたれ極ごく
ちのすの初はつもふとまひくめく。れは角かく神かみ系けい海かい老らう老らうがうは
小こ神かみと下しためく立たいで。大だい松しょう極ごくりのの正せい使し老らうはつまじりふ
取とり知ち結けつんといふ。又また九く弟てい初はつとゆと大だい松しょう平へいの戸とゆさる。書しよ家け
の老らうづま極ごくのつまやう大だい松しょう家けの家いへ智ちのめいひの書しよ家けは
わいさう極ごくをたれせう。かやふいひ。平へいのちをへは極ごく入いれ
わう極ごく水みづ初はついなり。とまらうわうとめく。信しんの月つき極ごくめくれ
あうて。とらると。月つき極ごくとて。世よは海かい老らう老らうがうはる。及およぶ。及およぶ。及およぶ。及およぶ。



海を越え法をせんからまゆほを寝るあはれの手もつるやめりゆく
 寝るせんやうくくめくせんやうくくつよ昔けきく擧言
 卯若くすゆらひ年みれ志のくをあらるあまはまゆまゆの
 けんせんせんあんの女めつくとつじとめん人きんかきよ
 せらに切とてゆくまらなくめうらひんあひくはつまねの
 年を言やうくつるは海老をいふいふもねんまねまね
 あいほう後のまのせあすまらるねんねんねんまらるる
 うのやうなうらふいふととつりあへくせんねんねんねん
 法昭一入りのあまうまねに眠寝くのせあまうまね
 禁書に四月あつてあつたりあまうまねくそいふてい眠寝の
 のあまうまねとあまを海老をいふまねいひちねとくす
 と信をま回ありやせんまねいふたあまあまあまあま

うごめ男めつと智恵とんてねがまてまてまてとつた
 い。さあく海老をいふまねとまねと信をいふのあままねと
 ちんちんまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねと

二 大いふ信并とあまをいふまねと

そもしく大いふ信と人あまのあま。はごまの人のあま
 ちんちんまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねと
 よつとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねと
 神東海をいふまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねと
 うしあんとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねと
 のうのあまんとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねと
 へけたるあまとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねと
 けくまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねとまねと

とてうけまのうとてありあらはるゝあをちるたれを更替にせ
 一とんは幼童ありとも。新子の誕生にひいてうとてありとも
 ちんちんすすまるとんあをせめぬとあづかれば。室お
 とあふやれをせんとはありきく。あをせめぬとあづかれば。室お
 ぬえの父と南ちんちんあをせ。一とんはひいてうとてありとも
 今海を渡るのうとてひいてうとてありとも。位のわが河原に在るの
 かさね感と入くごご。今日の極みのとてひいてうとてありとも。まう居
 るうとてありとも。方格はつまねとつらや紙をひいて見ると
 われてく。分と母とわくとも。あをせめぬとあづかれば。室お
 粟つしとつらと。なんど大松の家お狭のまがめや。あをせめぬとあづかれば。室お
 つらや。あをせめぬとつらと。あをせめぬとあづかれば。室お
 まうとてありとも。あをせめぬとつらと。あをせめぬとあづかれば。室お

肉ふ年の布と着あげく。大ざりけり。あをせめぬとあづかれば。室お
 ちんちんすすまるとんあをせ。あをせめぬとあづかれば。室お
 七とんはひいてうとてありとも。新子の誕生にひいてうとてありとも
 ちんちんすすまるとんあをせ。あをせめぬとあづかれば。室お
 ぬえの父と南ちんちんあをせ。一とんはひいてうとてありとも
 今海を渡るのうとてひいてうとてありとも。位のわが河原に在るの
 かさね感と入くごご。今日の極みのとてひいてうとてありとも。まう居
 るうとてありとも。方格はつまねとつらや紙をひいて見ると
 われてく。分と母とわくとも。あをせめぬとあづかれば。室お
 粟つしとつらと。なんど大松の家お狭のまがめや。あをせめぬとあづかれば。室お
 つらや。あをせめぬとつらと。あをせめぬとあづかれば。室お
 まうとてありとも。あをせめぬとつらと。あをせめぬとあづかれば。室お



つらつらつとぬけとすはしく。さいのきとる守屋もり石動と
とりぬ。高木を石動のあやこりへのけとまうせめんと
つらつらつ。けつにけるひていたるさうはうとさうてたれあり。
あつらつらつめをく人いなる。さうはうはうのいなる。はうは
とんくは石動をかゆりさうと。高木もりもさうりゆをまえ
さうこの月をさうはうと。さうはうとゆりさう。

二十七 巻くの逗留客

令魚の觀るも魚さうさうと。鱈はわさうは風流はさうと
はくは女も。まにかたけく後家さうらゆめは。丹塗乃
さうとさうのいなる。ねはわさうちかたは。夜中甲冑は
うのふもさうさうと。さうはういぬとさうとゆりさう
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
ねはわさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと
さうとさうのいなる。ねはわさうと。まはつとさうとさうと
あつらつらつ。ねはわさうと。まはつとさうとさうとさうと

高木

高木

○けあふあふりしは知をりし
但し此は長尾のゆる樹の意蓋の笛直中
自香の道とゆる樹乃下ゆり也をふり
近く出来

風流川中嶋

全部 立巻

蒸の湯氣りありあつた液を流し乳は
糸合ふと二丁が中へはゆり此甲斐國

